

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370101362		
法人名	有限会社 絆		
事業所名	グループホーム 絆		
所在地	盛岡市仙北3丁目14-41		
自己評価作成日	平成28年11月13日	評価結果市町村受理日	平成29年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/i/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&Ji_gvosvoQd=0370101362-00&Pr_efQd=03&Ver_si_onQd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家を改造した家庭的な雰囲気の中、入居者様と職員は家族と会話をするように「ただいま」「おかえりなさい」「行ってきます」「何処にいくの？早く帰っておいでよ」と挨拶を交わします。笑顔をつくる環境が体や心を丈夫にし、入居者様が安心して穏やかに暮らせていけるのだという信念を持ち、職員一同が援助させていただいています。日常の散歩時や運営推進会議、絆主催の夏祭り行事、舟っこ流し、さんさ踊り、地域の清掃活動や運動会参加等を通じてご近所の方々とも交流を深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当地区で、グループホームを開始し、10年を過ぎ、管理者をはじめ、職員の長年の努力により、地域の一員として日常的に交流している。町内会に加入し、利用者と一緒に清掃活動に参加している。お盆の大きな行事である「舟っこ流し」では、職員が地区に期待され、舟作り、担ぎ手として参加している。また、ホーム主催の夏祭りを、近隣の方が楽しみに待っている。散歩の際には、挨拶を交わし、散歩に出ないと、どうしたのと心配して下さる等、地域の理解と協力が得られている。
 ・介護計画は、代表者、管理者、ケアマネジャー、職員全員で評価、意見交換が行われ作成されており、チームでケアに取り組み、質の高いサービスが提供されていることが窺われる。
 ・共用の居間には、笑い声がきかれる。当日は、毎年来ているスコール高校の生徒と先生によるクリスマスの慰問で、ギター伴奏による歌と、クッキーとメッセージカードが届けられ、利用者はいっそう笑顔であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のケア会議の初めに各職員が交代で理念を読み上げ、確認しています。	理念は、職員の意見をまとめて作成している。ケア会議(月1回)で、次第に記載した理念を、司会の職員が読み上げ、意識付けしている。また、年度初めの推進会議で、委員の皆様理念を示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動、運動会、回覧板、赤い羽根募金、お祭りな自治活動にも参加しています。今年の舟っこ流しには1名が製作活動から参加し、2名の男性職員が担ぎ手にも参加しています。	町内会に加入し、地域の活動に参加している。清掃活動には、今年から利用者が自分も行くといっしょに参加している。舟っこ流しには、職員1名が舟作りから参加し、2名が担ぎ手として参加している。また、ホームで行う夏祭りは地域の方々が楽しみに待っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年行っている夏祭りにて地域の伝統さんさ踊りを披露していただき、ご近所の方々にも参加していただきました。	/	/
4	(3)	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、奇数月に開催し、主治医、民生委員、地域包括センター職員、シルバーメイト、入居者様、ご家族等も参加していただいています。毎月発行しているニュースペーパーで施設の活動内容も紹介しています。	推進会議には、かかりつけ医、民生委員、シルバーメイト(地域の代表者)、地域包括職員、利用者、家族が出席している。利用者と家族は全員に案内し、都合の付く方が出席している。利用者には、接待をするという気持ちが窺われる。委員は、毎回、協力医の時節に合った健康講和を他の委員は楽しみにいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからないことがあれば訪問し、直接聞くようにしています。日頃から連携を図るように心掛け、協力関係を築いています。	市の関係窓口には、介護認定や更新の手続き等、細かなことも電話や直接出向いて相談している。担当課とは顔馴染みになり、協力関係が築けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束とはどのような行為なのか研修で学び、玄関の施錠及び身体拘束しないケアを行っています。	玄関を含め、ベランダや窓の施錠はしていない。玉山まで歩いて行くと出ようとする利用者には、職員が見守りしながら安全な道に誘導し、戻ってくる。暴力行為の激しい利用者には、精神科入院までの数日間、身体拘束せず、見守り続けた。言葉での拘束についても、意識しながら関わっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士が悩みを相談し合える環境作りに努め、虐待防止になっていると思います。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	平成27年度に日常生活自立支援事業を利用されて入居された方がいました。研修等に参加した職員が中心となり、他職員も制度を学べるように体制を整えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項を説明し了承を得た上で契約しています。又、改正がある場合等は再度説明し同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の面会時や、地域推進会議において話をし、ケアプランの説明などの際に意見を聞くように努めています。又、玄関に意見箱を設置しています。	日頃の面会時や地域推進会議、ケアプランの説明などの際に意見を聞くように努めている。運営推進会議では、台風10号の水害に、仙北地区でも以前は水害地域だったことが情報として出され、水害対策に反映されている。ホームに入居し、利用者が笑顔になったと喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	出来るだけケア会議へ参加し、職員の意見を聞くように努めています。	月1回のケア会議に、代表者が参加し、職員の意見や提案を聞き、サービスの向上や職員の意欲の向上が図られている。職員の意見で、各室のFF式ストーブを止め、エアコンを設置した。また、外出時利用者との外食費用、誕生会のケーキ、プレゼントの費用は事業所負担となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は出来るだけ月1回のケア会議へ参加し、職員と意見交換を行っています。各職員の意見を取り入れるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員のスキルを見極め、適切な研修を受講できるように推奨しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の研修会に参加するようにしています。他事業所と電話連絡をして、交流を深めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居された方は、不安を感じないよう職員が話相手になったり、他入居者様との交流を機会を設けたり、サポートしながら、早く馴染めるように工夫しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時、電話等で家族の要望を聞き、希望に添うように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の状況に合わせ、ご家族と相談しながら必要な支援を見極めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のペースを合せ、やりたい仕事を職員と共に に行い、家族のような関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	施設主催の夏祭りには食事を用意して、ご家族も 招待し、普段食事を共にする機会の減った入居者 様と一緒に食事を摂る機会を設けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方と関係が途切れないように、面会を受 け入れ、交流する場を設けています。	事業所主催の夏祭りに家族を招待し、利用者の 居室で一緒に食事をし、家族とのふれあいの機会 としている。傾聴ボランティア(月1回)の来訪や、 口笛芸人、大道芸人の訪問もあり、楽しんでい る。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	入居者様の方々それぞれの性格や相性を考慮し た席並びをおこなうなど、交流がスムーズに行わ れるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、今後の相談に応じるようにしています。 入院退居された方には、お見舞いに伺うこともし ています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	ご家族と相談しながら、ご本人の希望を最優先で 支援しています。	食事の介助をしながら、好きな食べ物を聞いたり、 日々の生活で会話しながら、また、表情や動 作で意向や希望を把握している。家族から情報を 得ることもある。得た事柄は、毎日の申し送りノート、 ケースファイル等に記録し、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入居時や面会時などに、ご本人やご家族に生活 歴や昔の様子をお聞きし、理解を深めるように努 めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	入居当初はセンター方式の用紙を用いて生活の パターンを把握するようにしています。申し送りで 日常の変化を確認するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議において職員全員で話し合いを行い、ご本人やご家族など関係者の意見は日々情報収集し、臨機応変に介護計画に反映されています。	ケア会議(月1回、代表者、全職員参加)で、3名ずつ計画に沿って評価し、ケアマネジャーが、次期の計画を作成している。評価は、様子記録、業務日誌、申し送りノート、行動記録、連絡ノートを参考にしている。計画は、家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は様子記録によって確認し、詳しいことは個別のケース記録に記入しています。又、申し送りノートを活用し職員間で情報の共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の要望に対応できるように柔軟な支援を心掛けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にあるドラッグストアへ、一緒に買い物へ出掛けたり、せせらぎ通りでの散歩や花見、近所の床屋さんの利用など、付き添い支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に医療連携を図っているクリニックへの受診支援を行っています。他病院へ通院希望があった場合は、ご家族へ対応をお願いし、書面にて状態報告しています。必要時のはケアマネが受診付き添いも行います。	協力医がかかりつけ医となっている方が多く、訪問診療もお願いしている。歯科の協力医は、訪問診療、口腔ケアの指導も実施している。通院については、家族対応であるが、不可能な場合は、ケアマネジャーが付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に主治医より看護師が派遣され、バイタルチェックや主治医との連携を支援していただいています。又、入居者様の状態の変化を報告し、支援のアドバイスをいただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は主治医から紹介状や情報提供書により、情報交換を行っています。又、ホーム長やケアマネがご家族や医療連携室と連絡を取り合い、関係作りをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の場合、ご家族、主治医、施設で話し合い、ホームで出来ることを説明し、ご理解いただけるように努めています。又、職員間ではご入居者様をチームで支えられるようにケア会議にて話し合いを行っています。	看取り指針を定めている。重症化や終末期には、家族、主治医、職員で話し合い、主治医の指導助言を得ながら、チームで支援している。これまで、看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時にはマニュアルに添って管理者、主治医へ連絡し対応しています。救急救命の講習も定期的受講しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回総合消防訓練を実施し、消防署の指導も受けています。毎月の自主防災点検も行っています。水害ハザードマップを掲示し、防災マニュアルを作成しています。	年2回、消防署立会いの避難訓練を実施している。市の水害ハザードマップを掲示している。水害の場合、まず、ホームの2階に避難するようにと、消防署の指導で、防災マニュアルの見直しをし、地震、水害、火災と、それぞれ作成している。また、毎月の自主防災点検を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は排泄、入浴支援の際など、人格を尊重し自尊心を損ねないように言葉かけや対応に注意しています。	利用者へは、本人や家族に確認し、名前にさん付けで呼びかけている。排泄や入浴支援時には、特にプライバシーの保護に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で会話を通じて希望を聞くようにしています。うまく表現できない方は簡単な選択を求め、表情や意思をくみ取るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限りご本人のペースに合わせ、支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や行事の際には服装を選び特別感が出るように支援しています。ひな祭りには女性入居者の方々にお化粧を行いました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が献立を作成し、ご入居様の好物や旬な物、行事食を提供しています。	献立は、職員が交替で作成している。朝食は、メインのおかず(納豆、温泉卵等)を一つ決めておき、当日の食事当番がプラス(がんも煮、カブとアサリの煮物等)している。日曜日の朝食は、パンとしている。誕生日のおやつには、ケーキ、団子、シュークリーム等、本人の希望のものを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み込みが悪くなっているご入居様はミキサー食やトロミ食を提供し、安全に栄養摂取できるように工夫しています。毎食のお茶の他、午前と午後の水分補給を促し、摂取していただけるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食ごとに口腔ケアを行い、清潔保持を行っています。歯科往診を依頼し、専門的口腔ケアも取り入れています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のご入居様の排泄パターンを把握し、トイレ誘導し支援しています。出来るだけ自力排泄を保てるように、こまめな誘導を心掛けています。	現在は、5名の利用者で、自立が2名、リハビリパンツにパット併用が2名、おむつ利用の方が1名となっている。排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。排泄後は、温タオルで清拭し、清潔を保持している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量に気を配り、自力で排泄するように支援しています。解消されない場合は、主治医、看護師へ相談し薬剤も使用し、対処しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日に3人で2日おきに入浴できるように援助しています。個々の希望、体調も加味して援助しています。	入浴は、1日に3名で、2日おきに入浴しているが、希望により、毎日入浴できるようになっている。入浴を嫌がる場合、スムーズに誘導できた時のデータを蓄積しており、参考にしながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペース、年齢、前夜の睡眠状態を申し送り確認し休息を促しています。基本的のは夜間に安眠できるようにメリハリのある生活を支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルにまとめ職員全員が確認できるようにしています。変化のあった場合は主治医、看護師、薬剤師へ報告し相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様の気分や希望、身体状態に合わせてその場に合った楽しみごとを提案し、気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時や散歩やバルコニーへ出て日光浴を行うにしています。秋の行事ではショッピングモールへ出掛け好きな外食を楽しんできました。	天気の良い日は、向かいの川沿い(せせらぎ通り)を散歩している。(散歩等の)姿を見せないと、近所の方が、どうしたのと心配して下さる。季節のドライブや祭の見物、家族との外食等、外出時の食事も楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	施設側で個々の金銭を預り金として、保管管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望がある場合は、職員が支援しています。手紙の投函は職員が代行して行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の行事が感じられるよう飾り付けを行い、居心地良く過ごされるよう環境整備を行っています。	共用の居間兼食堂には、季節のクリスマスの飾りがされている。小さな丸テーブル、重厚な食卓、ソファ、テレビ、クーラー、加湿器等配置されている。また、大きなコタツとソファが置かれたスペースに、古い桐の筆筒が置かれ、家庭の雰囲気を感じられる。利用者は、思い思いの場所に、ゆったり寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では職員や他入居者様の方々と会話を楽しんだり、テレビ鑑賞、景色を眺める等して過ごしています。独りになりたい場合は、自由に居室で過ごされています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みの物を持参していただけるよう、ご家族様にお願いしています。くつろげる居室作りをしています。	居室は、民家を改修したこともあって、広さや形態が異なっており、家族それぞれの部屋に感じられる。ベッド、テレビ台、押入れがあり、寝具、衣装ケース、筆筒は持込みである。職員が作成した敬老会での家族の団欒写真やメッセージカードが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動できるように手すりを付けたり、段差にカラーテープを貼るなど、転倒防止に努めています。		